

農産 F A X 情報 第 3 号

令和 4 年 6 月 1 5 日
ゆとりみらい 21 推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 ばれいしよ

○疫病の防除

- ・ばれいしよ疫病初発予測（FLABS）の公表情報に注意し、予防防除に努めましょう。
「FLABS」または「疫病初発予測」とインターネットで検索してください。
- ・降雨などにより、ほ場に入れないことが予想される場合はダブルインターバル（14 日間の防除間隔）効果のある薬剤を使用しましょう。

表 疫病の防除例

薬剤名	希釈倍率 (倍)	ダブル	使用回数 (以内)	使用時期 (収穫前)	系統名
		インターバル			
フロンサイドSC	1,000~2,000	1,500	4回	7日前まで	他合成
リライアブルフロアブル	800~1,000	800	3回	7日前まで	ベンズアミド ・カーボメート
プロポーズ顆粒水和剤	750~1,000	750	5回	7日前まで	CAA ・クロコトリル
ランマンフロアブル	1,000~2,000	1,000	4回	7日前まで	QiI

○ナストビハムシの防除

- ・成虫を防除し、幼虫の密度を抑えましょう。
- ・成虫の防除は、発生盛期に 7~10 日間隔で 2 回実施することが望ましいです。

2 秋まき小麦

○赤かび病防除

- ・出穂にバラツキがあるほ場が散見されます。なるべく全ての穂に薬剤がかかるよう、防除間隔 1 週間を目処に複数回防除を実施しましょう。
- ・耐性菌の発生を抑えるため、同系統薬剤の連用は控えましょう。

3 てんさい

○葉腐病・根腐病防除

- ・高温多湿条件で発生が助長されます。気象経過に注意し、予防防除に努めましょう。また、排水不良や連作・短期輪作ほ場では6月中旬から早めに防除を行いましょう。

○ヨトウガの防除

- ・北海道病害虫防除所による予察情報では、平年に比べ発生期は早く、発生量は少ないと予想されています。
- ・例年6月中旬ごろに発生が確認されているため、ほ場観察を行い、被害株率50%を目安に防除を行いましょう。

4 豆類

○中耕

- ・中耕は地温上昇による、初期生育の促進が期待できます。生育が進んでいる場合は根を傷つける可能性があるため、畦間への根の伸長状況を確認し、ツメの幅を調整しましょう。

◎農薬散布時のドリフトに注意！

◎水分・塩分補給で熱中症対策！！

◎安全確認を行い、農作業事故防止！！！！